

<p>5 米騒動と高まる社会運動 教科書P240～242</p>	<p><この時間に使える教材> 小説・映画「橋のない川」(住井すゑ)</p>
<p>◆思考 大戦により日本経済が飛躍的に拡大し本時のねらい 新興資本家と労働者階級が急速に成長したことを説明できる。</p> <p>◆思考 資料 米騒動の原因・影響を説明できる</p>	

<p>● 発問例のバリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なぜ図のような成金が増えたのでしょうか。 ○なぜ米騒動はこのような地域に急速に広がったのでしょうか。 ○成金が増えたのに、なぜ労働者の暴動が起こるのでしょうか。 ○米騒動は当時の日本に社会運動にどんな影響を与えたのでしょうか。 ○大震災では何が起こりましたか。 	<p>● 学習内容の整理</p> <p>第1次大戦・・・ヨーロッパが主戦場 アメリカ → ヨーロッパ ← 日本 アジア・アフリカなど市場</p> <p>戦後の不景気と米価急騰 生活の圧迫 ↓ 大暴動(米騒動) ↓ 各種社会運動の誕生 大逆事件後の「冬の時代」に幕 ---大正デモクラシーへ</p> <p>資本家・・・「成金」・財閥の成長 資本主義経済の急激な拡大→ 労働者・・・都市市民・貧民層の拡大</p>
--	--

○ 図版解説

図①「成金」(和田邦坊画)

大戦景気は日本の資本主義経済を急激に拡大させることになった。イギリスを始めとするヨーロッパ諸国が戦場となったため日本とアメリカは空前の好景気になったのである。例えば日本の造船業は1913年の6工場51525tから18年の57工場626695tと10倍以上の伸びである。(安藤良雄「近代日本経済史要覧」)

？の扱い方

この絵が、大戦景気にわく新興資本家の言動に対する社会的な風刺であることに気づかせる。

将棋で「歩」が敵陣に入ると裏がえって「と金」になる。成り上がりものへの嫉妬・冷笑を込めた呼び名が「成金」である。日本資本主義の底の浅さを反映して、その多くは戦後の不景気の中で没落していった。代表的な例として、神戸の鈴木商店をあげると良い。米騒動で焼きうちされ、金融恐慌で倒産した。

図②日本の輸出入の変化

大戦直前まで日本経済は日露戦争時の巨額の外債の利払い、貿易収支の恒常的赤字に悩まされ、1914年の債務1963百万円、債権447百万円という債務国だった。ところが大戦をきっかけに、軍需物資の輸出がまず増加し、アメリカの好景気で生糸輸出が好況となり、さらにアジア・アフリカ・南アメリカへの消費財の輸出が本格化した。また、21カ条要求で列強のスキをつけて強制的に中国への借款と資本投下(在華紡に代表される)を認めさせた。

この結果1918年には日本は債務1638百万円、債権1925百万円と債権国になった。

図③米騒動の広がり

第1次世界大戦の好景気による都市部の人口急増は、米を投機の対象とした。

1918年6月ごろより、前年度の米の不作も影響して米が値上がりしはじめたが、同年8月には、シベリア出兵を見越した地主や大商人が米を投機的に買い占めたため、6月に1升(1.4kg)35銭だったものが、シベリア出兵が行われた8月には50銭出しても買うことができない状態となり、一般民衆に著しい生活難をもたらすこととなった。

このような状況のもとで1918年7月23日、富山県下の漁師の主婦たちが、下新川郡魚津の海岸に集まり、県外に移出する米の船積みを実力で阻止した。そしてこれをきっかけとして同海岸一帯の町村での米の安売りと、生活困窮者の救助、米の県外移出禁止などを要求して米商人や町村役場などにおしかけるといった動きが広まった。そして、このような動きは、同年8月中にすべての大都市と中小の都市に広がり、米商人や富豪の家が打ち壊された。その後、9月中旬にいたるまで、米騒動は農村や炭鉱地方にも波及し、49市217町231村で騒動の記録が残されている。

このような1918年の米騒動は、自然発生的な暴動であり、組織的な指導はなかった。しかし、このような大規模な暴動は明治国家体制で初めてであり、藩閥・元老を中心とする旧支配層に深刻な危機感をいだかせた。この結果、初の本格的政党内閣である原敬内閣を誕生させるとともに、大逆事件以来「冬の時代」にあった日本の社会運動に春をもたらした。

図④小作争議と労働争議

第1次大戦の経済発展によって、日本国内には都市労働者の人口が急激に増大した。5人以上の民間工場労働者が1914年95万人から1919年161万人に増加し、しかも造船などの重化学工業労働者の比重が増えたことから組織的な労働運動が活発化した。

1912年キリスト教徒鈴木文治らはイギリスに習って労働者の相互扶助などの目標を掲げ友愛会を設立した。大戦が起こると、物価高騰を受けて賃上げ要求の争議が各地で起こり、友愛会は組織を全国に拡大していった。1919年には大日本労働総同盟友愛会と改称し、宣言に労働者と資本家が対等の人格であることを認めるよう唱い、待遇改善・8時間労働制確立・普通選挙などを要求に掲げるまでに成長した。

○本文解説

p 242

20行目 {・・・日本農民組合が作られました}

米騒動は、大逆事件以後の日本の社会運動の「冬の時代」を終わらせ、さまざまな社会運動組織が一斉に作られ始めた。米騒動は指導のない民衆のほう起と暴動であり、知識人はこの民衆のエネルギーに近代的な組織と運動を与えたのである。当時の知識人の社会運動はキリスト教の社会改良運動・アナキズム（無政府主義）などのさまざまな流れに加えて新たにロシア革命で成立したコミンテルンの指導を受けたマルクス主義も流入した。このうち、キリスト教徒賀川豊彦の強い影響下に作られたのが日本農民組合で、日本の社会運動の中心にたった。

p 242

{朝鮮人の虐殺}

関東大震災下の混乱の中で、多くの朝鮮人・社会主義者・労働運動家が虐殺された。このうち、朝鮮人の虐殺は一般の不特定多数の庶民がデマに惑わされて手あたり次第に朝鮮人を殺したもので、近代日本史上最も恥ずべき深刻なできごとである。

震災当日の9月1日、「朝鮮人が混乱に応じて井戸に毒を投げ込み、放火・暴行・強盗をしている」というデマが流れ、警察も警戒を呼びかけたため、デマが事実であるかのように被災地域に信じられ、各地で自警団が作られ朝鮮人の取り締まりが始まった。彼らは通行人を誰何し、日本語の発音ができない朝鮮人を次々と暴行し殺したのである。当時の政府発表では死者は231人だが、実数は6000人に及ぶともいわれる。日頃の差別意識がパニックの中で暴走したと言えよう。

○発展資料 米騒動の社会経済的必然制

米騒動のきっかけになったのはシベリア出兵にと

一方、小作争議は1920年の戦後恐慌をきっかけに激増し、1921年には4倍に増えた。大戦を通じて資本主義経済が農村のすみずみまで浸透したためである。争議は商品経済の発展した西日本で特に多く、これが1922年4月の日本農民組合結成につながる。

P242写真①関東大震災

1923（大正12）年9月1日午前11時58分44秒、マグニチュード7.9、震源地相模湾北西部初島付近である。死者・不明約14万のうち、東京市は5万8104人（当時の人口227万）。これを阪神大震災の神戸の死者5千人と人口140万に比較すると被害の甚大さがよくわかる。最も悲惨だったのは本所深川の陸軍被服工場広場で、ここに逃げ込んだ3万8千の群衆は火のつむじ風に巻かれほとんどが死亡した。

もなう米価の投機的買い占めだが、その背景には資本主義経済の拡大にともなう都市生活人口の急増がある。

1914年に産業別生産額が農業45.4%、工業44.4%だったものが、1919年には農業35.1%、工業56.8%と第1時大戦期を通じて日本経済は農業国から工業国へと代わった。この結果、人口1万人以上の都市人口が総人口に占める割合は1903年の21%から1921年には32%といちじるしく増加した。

当時の工場労働者は、日給・週給が主体でその日暮らしの生活が多く、熟練工であっても「渡り」と呼ばれる者が多いことが示すように、一つの工場に定着することが少ない流動的な大衆層を形成していた。大戦景気の物価高騰は彼らの実質生計費を急迫させたが、当時の政府の彼らへの社会政策は皆無に近く、日本的経営に見られる企業の温情的労務管理はこの時期にはまだ確立していなかった。

こうして、日本社会はいわば必然的に米騒動を経験したのであり、大逆事件以後の社会運動の「冬の時代」も、必然的に終わることになった。

なお、米騒動後の労働運動の高揚の時期に、資本家側も労務政策を研究し、大企業を中心に終身雇用制・各種手当の充実などの「日本的経営」が普及しはじめたことは、注目すべきだろう。

○授業で使えるネタ 軍による大杉栄らの虐殺

関東大震災で労働運動家や無政府主義者が軍の手で組織的に虐殺された。特に当時の無政府主義のリーダーだった大杉栄は妻伊藤野栄・甥の10歳の少年とともに治安維持を理由に軍に拘束され、3人とも甘粕憲兵大尉によって惨殺された。甘粕はその後満州にわたり、終戦時に自殺するまで軍の暗黒部面を担当した。朝鮮人虐殺と並んで触れておきたい。

被差別の人々とアイヌの人々 教科書 P243		この課題に使う教材 ・島崎藤村「破戒」 ・住井すゑ「橋のない川」 ・平山裕人「アイヌ史を見つめて」 ・萱野茂「アイヌの碑」 ・知里幸恵「アイヌ神謡集」
課題のねらい	明治維新以後においても封建的な身分差別やアイヌ民族への圧迫が強化再生産されていた事実を知り、差別をなくすための戦いの様子を学ぶことを通して真の平等の実現に何が必要かを考える。	

○指導上の留意点

被差別部落は近代社会になると自然と解消されて行くのではないか、敢えて生徒に知らせ「寝た子を起こす」必要はないのではないかという考え方の誤りを歴史的事実に基づいてきちんと訂正したい。

先住民アイヌ民族が近現代にどんな状態に置かれたかについては、最近ようやく「旧土民保護法」の撤廃と「アイヌ新法」制定への動きが国会でも取り上げられるようになってきたが、北海道以外の教育現場では基本的な事実すらほとんど知られていないのが現状であろう。資料も1980年代以降出版されたものが多い。まず教師自身が正確な認識を持ちたい。

資本主義の競争社会において小数者・社会的弱者は本質的に絶えず不利な状態に追いやられる。だからこそ、その差別にあぐらをかく人がいる一方で、市民革命の「自由・平等」の理想を実現しようという情熱と運動も生まれる。どちらの側もともに同じ時代の同じ人間が体現する姿である。この認識に立ち3年公民で「平等権」を学ぶ前提として、日本の近代史上の以下の2つの特色をここで押さえたい。

- ①明治維新以後、民権よりも国権を重視する国家体制を作り上げ、市民社会が極めて未成熟である。
- ②「国民国家」意識の形成が封建的な家父長制に支えられたため、男中心で「日本人」の中に少数民族や外国人を含めて考えることができない。

この2つの特色は戦前・戦後を通じて連続性が強い。

いじめ問題等に象徴される生徒の日常における人権感覚の欠如を、そのような歴史的な条件から説明することも必要であろう。その上で、これからの時代を生きる生徒たちがどんな社会を築くべきか、真の自由と平等を実現するために何が必要かを考えさせたい。

○本文解説

p 243

6行目 {・・・被差別部落の人々への差別はむしろ増えていたのです}

明治4年の太政官布告（いわゆる「解放令」）が封建的賤民制の制度的差別から資本制の中で実質的

差別への移行だったことはすでに説明した通りである。明治期を通じて半封建的な資本主義経済下において部落差別は確実に再生産された。内務省の調査では、1919年当時に被差別部落民は87万6000人あまり、差別は生活のあらゆる面にわたり、就職先の限定、教育上の差別、神社・寺院における差別、軍隊内の差別、青年団・処女会などの参加から結婚などでの差別が大正期に入っても目立った。

第1次大戦の経済拡大による都市貧民層の拡大の中で被差別部落民はその最底辺を形成した。彼らは近代的産業への就職から閉め出され、米価の高騰にその日の生活を最も深刻に脅かされたわけである。したがって、各地の米騒動で中心的な役割をはたした人々の中に被差別部落民が多かったのは偶然ではない。全国の検挙者中の被差別部落民の割合は人口比の約5倍の11%（8185人中887人）である。

この結果、部落差別が社会問題としてはじめて意識されるようになり、行政の側からの地域改善運動や民間の慈善家による融和運動が起こった一方で、部落青年自身による自主解放の運動が始まったのである。1921年福岡県の松本治一郎らの筑前叫革団・三重県の上田音市らの鉄心同志会がその先鞭をつけた。これらの動きを全国的に糾合したのが全国水平社である。

水平社創立の動きは、1921年11月に奈良県南葛郡上村柏原で西光万吉・坂本清一郎らが準備した。「水平社」の名つけ親は坂本で、「中世イギリスの農民運動団体レバラーズの焼き直しのやうであるが、実は筆者がたまたま頭に浮かんだままに仮に名付けた」（阪本清一郎『扉を開く』）と述べている。

米騒動はぎりぎりまで追いつめられた彼らのはじめで自らの手で解放を勝ち取ろうと立ち上がる歴史的なきっかけを与えたとも言えるのである。

21行目 {北海道では、アイヌの人々が・・・}

明治維新後、北海道開拓が進展する中で先住民アイヌを日本帝国臣民に同化させるべく旧土人保護法が1899年に成立し、1戸5haの土地給与による農業化促進とアイヌ学校設置による同化教育の推進などはじまった。こうして、アイヌ民族は急速に「同化」

させられていくが、大正期にはいるとアイヌ文化の独自性を自覚する動きや、アイヌ人自身による生活条件改善をめざす動きが起こった。

知里幸恵『アイヌ神謡集』(1921)は、カムイユカラ(神々の叙事詩)をローマ字表記のアイヌ語で記録し、アイヌ人自身の手による芸術性高い記念碑的著作となった。

1922年、十勝地方の伏古コタン(集落)の農業推進のための互助組合が「十勝旭明社」に発展、これが核になって、1930年北海道アイヌ協会が設立され、アイヌ自身によるアイヌのための組織ができた。機関誌『蝦夷の光』を発行、旧土人保護法の改正運動や偏見の打破、生活改善などのさまざまな運動を展開した。さらに、1931年には、アイヌ語による伝道を行っていたキリスト教宣教師J. バチラーを中心に全道アイヌ青年大会が開催され、アイヌ青年運動も盛り上がった。これらは、全国的に展開した水平運動・無産青年運動・婦人運動とともに大正デモクラシーの動きの一翼を担っているといえよう。なお、アイヌ協会は現在のウタリ協会の前身である。

これらの運動のうち、旧土人保護法改正要求の一部(アイヌ学校の廃止と日本人との混合教育の実施・就農強制から職業選択の自由化)は1937年に実現した。これはアイヌ協会の大きな成果であったが、国家の側からも国家総動員体制にアイヌを取り込むねらいがあったと考えられよう。戦前の総動員体制と戦後の高度成長を通して、アイヌは一貫して確実に民族性を奪われていった。

○ + α 資料 「破戒」と「橋のない川」

明治の自然主義文学の代表的存在である島崎藤村の「破戒」と、水平社運動の中心人物阪本清一郎・西光万吉らをモデルにした人間賛歌的な大河小説住井すゑ「橋のない川」をぜひ比較して読ませたい。水平社運動が生まれる以前の明治の自然主義私小説では、主人公の教員瀬川丑松は「エタ」であることを告白し、学校を去る。これが明治の日本の現実であり、ありのままの現実に目を背けることない主人公の苦悩の表白が明治の文壇の読者の心をとらえたのである。これはそれまでの日本の知識人の社会的な立場を示しているといえよう。

米騒動後の日本の社会運動は知識人に無産大衆の現実だけでなく階級的・社会的な力量も明らかにしたのである。「橋のない川」では坂本や西光らを想起させる主人公の少年誠太郎と孝二兄弟の会話で、誠太郎が丑松の行動を批判して次のように語る。

「身元を知られとうないと思う気持ちは分かるが、知られたからというて今までかくしてて悪かったと

謝る丑松の気が知れぬ。なんぼ絵空事というてもあれはあんまりや。あれを作った人は、まるでわしらのことを知らぬのや。つまりあの話を作った人は、はじめからエッタは世間の人と違う人間やと思いきんでるんやで。・・・」

2つの本の内容の違いはそのまま明治と大正の差でもある。

資料①

水平社宣言 西光万吉が起草したといわれる

● 綱領

一、特殊部落民は部落民自身の行動によって絶対の解放を期す。

一、我々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し、以て獲得を期す。

一、我々は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向かって突進す。

● 宣言

全国に散在する我が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐げられてきてきた兄弟よ。過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾らのための運動が何等の有り難い効果をもたらさなかった事実は、それらのすべてが吾々によって、また他の人々によって毎に人間を冒瀆されていた罰であったのだ。そして、これらの人間を 辱かの如き運動はかえって多くの兄弟達を墮落させたことを思えば、此の際吾らの中より人間を尊敬することによって自ら解放せんとする者の集団運動を起こせるは寧ろ必然である。

兄弟よ、吾らの祖先は自由・平等の渴望者であり実行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代償として暖かい人間の心臓を引き裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪われの夜の悪夢のうちにも、なお誇り得る人間の血は涸れずにあった。そうだ、そうして吾々はこの血を享けて人間が神に代わろうとする時代に会ったのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時がきたのだ。殉教者がその荊冠を祝福されるときがきたのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時がきたのだ。

吾々は、必ず卑怯なる言葉と怯懦なる行為によって祖先を辱め、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさがどんなに冷たいか人間を 辱ることが何であるかをよく知っている吾々は心から人生の熱と光と願求礼賛するものである。

水平社はかくして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光りあれ

大正12年3月 水平社

6 大正デモクラシーと普通選挙の実現 教科書P244-245	<この時間に使える教材> ・原敬日記 ・
◆資料 知理 大正デモクラシーの内容を調べ本時のねらい 最大の成果が男子普通選挙制と政党内閣の実現であり、その限界が治安維持法であることを指摘できる	

<p>● 発問例のバリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米騒動後民衆の政治参加はどのように実現されたのでしょうか ・選挙権の制限はどのように変わったのでしょうか ・大正デモクラシーはどんな思想家や政治家のどんな主張に導かれたのでしょうか ・治安維持法の内容とねらいは何でしょうか 	<p>● 学習内容の整理</p> <p>第1次大戦・・・日本資本主義の急速な成長→大正デモクラシー</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="662 548 874 672">既成勢力 藩閥・元老 軍部・財閥</td> <td data-bbox="885 548 1484 627">新興勢力 新興資本家！中産階級！労働者農民</td> </tr> </table> <p>対立</p> <p>相対的な地位低下→</p> <p>1918米騒動 → 1914 護憲運動 → 1924 → 1925 ↓</p> <p>原敬初の政党内閣 →</p> <p>民主主義を求め世論の高まり</p> <p>成果 男子普通選挙法 政党内閣の確立</p> <p>限界 治安維持法</p> <p>世界</p> <p>1917ロシア革命 1919ベルサイユ体制 国際平和・民族自決運動</p>	既成勢力 藩閥・元老 軍部・財閥	新興勢力 新興資本家！中産階級！労働者農民
既成勢力 藩閥・元老 軍部・財閥	新興勢力 新興資本家！中産階級！労働者農民		

○ 図版解説

図① 普通選挙を要求するデモ

普通選挙を求める運動は、明治後半期よりすでに始まっていたが、大衆運動として発展するきっかけになったのは1918年の米騒動だった。1919年2月に東京と大阪で大規模な普選要求大会が開かれ、1920年1月には41団体が参加する全国普選連合会が結成され、東京では3万人が参加する大規模デモが行われた。

図② 投票を呼びかけるポスター ？の扱い方

このポスターが初の普通選挙による衆議院選挙(1928)のポスターであることを知らせ、普選獲得の歴史を図③とともに説明すると良い。

○ 本文解説

p 244

5～10行目 {民衆が藩閥政治に反対し・・・護憲運動}

明治天皇が死に、大正へと年号が変わった時、政治情勢も大きな変化が訪れた。明治天皇の時代は維新の元勳すなわち元老と呼ばれる天皇側近の指導者たちが政治の方向を決めることが基本的であった。藩閥という批判を浴びながらも、基本的に国民はこの指導を信頼していたということが出来るだろう。

明治天皇とその側近たちが死に、世代が交代したとき、藩閥の継承者は先輩たちのような指導力を持つことはもはやできなかったのである。その典型的な例が第1次護憲運動の桂太郎内閣の崩壊である。

桂は、山県有朋直系の陸軍・長州閥であった。元老でありながら自由主義的な考えを持つ西園寺内閣が

普選要求はすでに1882年から起こり、1900年頃には本格化した。1911年には衆議院を通過したが、貴族院で廃案、藩閥・元老勢力が壁となっていた。

原敬も選挙権は拡大させたものの財産制限撤廃には反対したため、一時運動は後退した。この間、朝日などの全国新聞は普選に反対する勢力を国民全体の公敵と見なすなどのキャンペーンをはり、1925年に第2次護憲運動の加藤高明内閣の時になってようやく貴族院も通過し、普通選挙制が確立した。

したがって、普選確立にこれほどの長期間を必要としたわけであり、「普選」の2語がデモクラシーを求める勢力にとって大きな輝きを持っていたことを生徒が感じられるようにしたい。

陸軍の横暴によって倒れた後をうけて桂が後継内閣を組織すると、政党や新聞は民意を反映していないと世論に訴え、「憲政擁護・閥族打破」をスローガンに倒閣運動が広がった。

運動の中心となったのは政友会の尾崎行雄と国民党の犬養毅であり、その背後には交詢社(慶応出身の新進実業家の集まり)やジャーナリスト・弁護士などの進歩的な知識人たちがいた。国会で尾崎・犬養らが内閣不信任決議を上程すると桂内閣は休会を宣言し、藩閥・元老とともに詔勅に頼って国会を乗り切ろうとした。これに対し、大規模な憲政擁護大会が開かれ、1913年2月10日の国会再会の時は、護憲派議員が胸に白いバラをつけて登院し、国会を取り巻いた数万の民衆が激励した。このような革命的な盛り上がりの中で桂内閣はついに総辞職した。

これは大正政変と呼ばれ、近代史上初めて民衆運動の高まりによって内閣を倒したのである。

p 245

2行目 {原敬が…本格的な政党内閣をつくり…選挙権を広げましたが…}

大正政変後の内閣は政友会を与党とする海軍大将山本権兵衛・藩閥出身ながら民衆の人気があった大隈重信という藩閥・元老勢力による妥協的な内閣の後、山県直系の陸軍閥である寺内正毅が内閣を組織し、藩閥内閣が復活した。

これを打ち破ったのが1918年の米騒動である。この時、寺内内閣はシベリア出兵の強行、米騒動報道に対する言論弾圧などで民衆の怒りを増幅させ、総辞職せざるを得なかった。米騒動の革命的な盛り上がりを押さえるため、山県ら元老・藩閥は自由主義者西園寺に内閣を回そうとしたが西園寺が辞退し、窮余の一策としてついに政友会総裁原敬が政党内閣を組織することを認められたのである。

原内閣は、陸軍・海軍・外務の3大臣以外のポストを全て政友会黨員でしめ、原自身も爵位がない衆議院議員であるということから、藩閥・元老勢力から自由な初の本格的政党内閣であり、民衆からは「平民宰相」と歓迎された。しかし、その政策は大資本家や地主むけの積極的帝国主義政策・自由主義経済政策が中心で、普通選挙制に反対するなど労働者農民を含む民主主義的運動には敵対した。この性格が明らかになるにつれて、国民の支持がおとろえ、その中で1921年11月4日、東京駅で18歳の青年に刺殺された。現職首相初の暗殺だった。

原内閣は天皇制国家の行き詰まりから出現した政党内閣であったが、力の政策・政友会の党利党略を押し進め、国民の期待を裏切ったといえる。

6行目 {1924年再び護憲運動が起こり…普通選挙制が実現しました}

原内閣が普通選挙を認めなかったため普選運動が大衆的に盛り上がっていったが、藩閥・元老勢力はこれを認めず、1924年には貴族院を基盤とする清浦奎吾内閣が山県の支持で成立した。これは典型的な長州閥官僚内閣だったため、衆議院の政友会・憲政会・革新クラブが護憲三派を構成し第2次護憲運動を起こした。

護憲三派は「普選断行・貴族院改革・行財政整理」をスローガンに総選挙で大勝、世論の高まりを見た藩閥元老勢力はついに護憲三派による政党内閣を認め、憲政会加藤高明を首班とする内閣が成立した。

こうして、1925年3月29日、25歳以上の全ての男子に選挙権を与える普通選挙法がようやく成立し、これは戦前の日本の民主主義の最高の到達点となっ

た。しかし、女性に参政権がないこと・治安維持法で社会運動を弾圧したことという決定的な2つの限界が、その後の日本の進路選択を狭めたといえる。

○発展資料大正デモクラシーを支えた思想と実践

大正デモクラシーは①政治学法学における明治憲法の民主主義的解釈と運用の理論②ジャーナリストによる啓蒙活動③大学生による実践活動という3つの知識人の活動が結合して進展したといえる。以下に代表的な人物や団体をあげてみる。

①美濃部達吉…東京帝大法学部教授として明治憲法を国家法人説の立場から解釈し、天皇機関説を確立、政党内閣の理論的基礎となる。

佐々木惣一…京都帝大で美濃部とほぼ同時期に天皇機関説を説く。

吉野作造…東大法学部政治史教授。民本主義の理論を説くとともに賛同者たちと「黎明会」を組織し「中央公論」で論陣をはる実践家だった。

②長谷川如是閑・大山郁夫らと大阪朝日新聞

民主主義的な論陣をはる。長谷川はリベラリスト、大山は社会主義者としての生涯をおくる。

町田忠治と東洋経済新報

新興資本家のリベラルな主張を斬新な視点から鋭く訴える。

③新人会…吉野作造らの支持のもとで東京帝大の学生たちが組織。労働運動に接近していく。

民人同盟会・建設者同盟…早稲田大の学生を中心とする社会運動団体

これらの活動は、普選運動だけでなく労働・農民運動などさまざまな分野で近代的な市民社会を作る出発点となった。地方でもこの時期に青年層を中心に数多くの政社・思想・修養団体が作られ、その中には、上記の知識人の活動に影響を受けたものも多い。これらは大正デモクラシーのすそ野を形成した。

○授業で使えるネタ「玉座をもって胸壁となし…」

第1次護憲運動で桂内閣不信任決議に際して尾崎行雄がおこなった演説は、明治から大正に代わったことで藩閥権力が後退したことを示す典型的な演説だろう。少なくとも明治天皇存命中は絶対にこのような演説ができる雰囲気はなかった。

「彼ら（藩閥）は口を開けばすぐに忠愛を唱え、忠君愛国は自分達の一手専売のように言っている。しかし、その行うところを見れば、つねに玉座（天皇のイス）をもって胸壁となし、詔勅をもって弾丸に代えて政敵を倒そうとする者ではないか。」

非常に有名な言葉であり、大正デモクラシーの導入に使うと効果的である。

7 大正時代の文化 教科書P246～247	<この時間に使える教材> ・白樺派の小説（友情・惜しみなく愛は奪うなど） ・北原白秋・山田耕作・野口雨情などの童謡（ペチカ・赤とんぼ・しゃぼん玉など） ・新美南吉の童話（ごんぎつねなど）
◆資料 経済の発達により都市中間層や知識人本時のねらいが増加し、生活や文化が近代化され、さまざまな分野で現代に通じるくらしや考え方が広まったことを指摘できる。	

●発問例のバリエーション ・みんなの知っている童謡をあげいつごろできた歌なのか調べよう ・ラジオ・レコード・映画などの娯楽はそれまでの娯楽とどこが違うでしょうか。 ・近くにある高校はいつごろできたものか調べましょう ・大正デモクラシーで思想や運動はどんな方法で人々に伝えたのでしょうか	第1次大戦 ↓ 日本資本主義 急速な進展	●学習内容の整理 ぐらしの近代化 都市中間層の増加 電気の普及 洋服・洋食の一般化 教育の普及 中・高等教育の充実 知識層の増加 メディアの発達 ラジオ・新聞・映画	芸術文化の質的变化 文・大衆的 化へ・個人主義的 の・理想主義的 影・リベラル 響哲学・・・西田哲学 文学美術・・・白樺派 童謡・・・山田耕作
--	-------------------------------	---	--

○図版解説

写真①大正時代の銀座

1923（大正12）年の関東大震災後東京はめざましく復興し、1925年には現在の山の手線が全通、丸の内や銀座が都心になった。特に銀座は松坂屋など大型デパートが開店し、日本最大の繁華街となった。三越のキャッチフレーズ「今日は帝劇、明日は三越」は東京の上流階級で流行して大衆に広まり、洋装で銀座を歩くことが若い世代でもはやされ、保守

的な老人からは眉をひそめられるという現在に似た状況がうまれた。

？の扱い方

全国の地方都市の繁華街には必ず〇〇銀座がある。東京で流行が始まり地方はそれをコピーするという状況が生まれたのもこのころである。これは現在の中学生たちの生活や流行と関連づける（たとえば原宿の流行にあこがれる）と効果的だろう。

○本文解説

P 2 4 6

9行目 {ラジオ放送が始まり・・・}

1925年3月、日本で初めてのラジオ放送が開始された。普及率は、開始当初の約5000台から、3年後の1928年には50万台、満州事変後の1932年には100万台太平洋戦争が始まると500万台を越えた。

ラジオは大衆社会に応じたマスメディアの成立という画期的な意味がある。それまでの新聞が男子の戸主を中心に普及し、家父長的な社会に対応していたのに対し、ラジオは一家団らんの中で楽しまれ、情報の受け手は老若男女関係のない大衆だった。

近代社会の発展の過程で、誰が情報を握り、どう伝達されるか、どんな人々が受け手になるかは、社会のあり方を決める上で決定的な要因となる。ヒトラーは、ラジオを権力掌握の最重要の武器とし、またナチス権力のあり方もラジオというメディアのあり方に規定されたといえる。日本でも満州事変以後の十五年戦争でラジオは大きな役割をはたした。

p 2 4 7

3～4行目 {・・・中等教育を受ける人が増え大学や専門学校も増設されました}

第1次大戦による日本経済の急激な拡大は、産業・社会構造に大きな変化をもたらした。企業の管理部門を担当する高等教育卒業者、商工業の中堅技術者や事務員となる実業中等学校卒業者が絶対的に不足したのである。1917年にこのような社会の変化に対応すべく臨時教育会議が設置され、その答申に基づいて中・高等教育の拡充が一気に進んだ。

高等教育では、それまで大学が帝国大学3校のみだったのが、国立6校、公立2校、さらに私立8校計16校となり、多くの学生を社会に送り出した。

また、中等教育では中学校の拡充と合わせて商業学校・工業学校が相次いで設置され、全国の地方都市に及んだ。現在の中学生が身近かに接する地域の高校の前身はこの時期にあるものが多い。

これに合わせて学校スポーツも盛んになり、新聞社の主催する全国大会が国民的な人気を集めるよう

になった。甲子園の高校野球もこの時期からである。

また、この時期の教育改革は制度的なものだけでなく、大正デモクラシーを反映して児童の個性を尊重し自発性や創造性を伸ばそうとする新教育運動も民間を中心に展開した。これらは大正自由教育と呼ばれ、次の軍国主義教育の時代に対し大きな輝きを残している。

9 行目 {雑誌白樺を発行し・・・}

大正時代は、デモクラシーや個人主義の考え方が広まった時代だが、そのような状況を反映し、多くの人々から受け入れられたのが、雑誌『白樺』を中心に形成された白樺派だった。

『白樺』は1910年創刊、同人は武者小路実篤や志賀直哉、有島武郎、里見 などで、学習院出身など上流階級の子弟として生まれ、自己の人格の完成と個性の発展が人間らしい生き方につながるという価値観が共通していた。

明治末以降全盛だった自然主義文学が現実に屈服する私的世界を描いたのに対し、『白樺』は美や善の理想を掲げ、挫折を知らない強さを持っており、その人類愛などの普遍的な理想主義は大正デモクラシー下の知識人の青年たちに強い影響を与えた。

この白樺派の理想主義が、実際の生活に苦悩する全国の普通の若者に広まると、社会的な問題意識に裏付けられて現実を変革しようとする文化運動へと進展していく。白樺派そのものは「新しい村」運動が失敗に終わったように、厳しい現実を前に分解していった。しかし、その理想は雑誌『種蒔く人』を経て、労働者・農民という大衆と結びつき、プロレタリア文化運動へと発展していった。

○発展資料「立ち上がる女性たち」

婦人運動は1906年平民社婦人部が治安警察法第5条(婦人の政治活動の禁止・・・女性は政治集会への参加を禁止され、政治の話を集団ですることも禁止されていた)の改正要求運動をしたのが最初である。

1911年に平塚雷鳥らがつくった青踏社は、文芸誌から婦人運動誌へと発展した。大戦中、平塚が母性への国家の保護を要求したことに対し、与謝野晶子が「女性の依頼主義」と批判したことから、2人の間に論争が起こった。与謝野が11人の子の母として家庭と文筆活動の両立を果たした自負からの意見だったのに対し、平塚は日本社会の現実を踏まえ実際の女性の生活や労働の条件改善をめざしたのである。

青踏社解散後は、1920年に平塚雷鳥・市川房枝らによって「新婦人協会」が設立され、24年には各種女性団体が集まって婦人参政権獲得期成同盟へと発展し参政権獲得をめざして議会請願をくりひろげた。

しかし、1925年の普通選挙法では「戸主のみに選挙権を与える」という反対案があつて最後までもめたように、家父長制に根付く男子中心の意識は当時の(おそらくは現在も)デモクラシーの側の人間までも支配していた。結局、婦人参政権は獲得できず、確立するのは敗戦後だったのである。

この事実に象徴される日本社会の男女差別の根強さは、日本の「近代」がいかにか歪んでいるかを示すものだろう。この状態で個人の尊厳と平等に目覚めた女性自らの解放運動は、社会からの好奇の視線と冷笑・無関心などと絶えず戦わねばならなかった。

今でも男子のみの普通選挙制を「普通選挙制の実現」と表現するところに問題の根深さが現れている。

○授業で使えるネタ 童謡の陰に・・・「しゃぼん玉」 「青い目のお人形」の背景とその後

「赤い鳥」は夏目漱石門下の鈴木三重吉が、自分の長女が生まれたとき子供たちに本当によいものを与えたいと願ったことから発行された。大正デモクラシーを支えたさまざまな文化人たちが原稿を寄せている。童話と童謡の2つの部門があつたが、童話からは「ごんぎつね」で有名な新美南吉がいる。これ取り上げるのもいいが、童謡の授業も生徒たちの印象に残るようである。

「しゃぼん玉」の歌を歌わせる。この歌は作詞家野口雨情が最愛の我が娘を2歳で失ったとき自らを支えるために作った歌であることを説明する。大正文化のあたたかさや奥の深さが感じられる。

「青い目のお人形」はハイカラな雰囲気のある曲で当時流行したが、この歌をヒントに昭和初年にアメリカからの人形親善大使が全国の小学校に贈られて全国の子供たちが親しむ曲になったのである。やがて日米戦争になるに及んでこの曲は禁止され、人形もほとんどが焼かれてしまったのは周知の通り。

十五年戦争の激化とともに「軟弱な」童謡は軍歌に取って代われ「赤い鳥」も廃刊になった。大正デモクラシーや自由教育は短い生を終えるのであるが、本当にその心は死んだのだろうかかと生徒に問いを發してみるのである。

答えは生徒たち自身が知っている。今あげた2つの曲の他にも野口雨情・本居長世の名コンビで作られた「赤い靴」「七つの子」や百田宗治「どこかで春が」また北原白秋・山田耕作の「ペチカ」「あわて床屋」異聖歌「たきび」など、軍歌は一つも知らないが、これらの童謡は必ず聞いたことがあるはずである。

母親が歌ってくれたか、幼稚園で歌ったか、・・・本当に良いものは時勢や権力の弾圧を越えて人の心に生き続けるのである。

<p>8 世界恐慌 教科書 P 2 4 8 ~ 2 4 9</p>	<p><この時間に使える教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャップリン「モダンタイムス」 ・スタインベック「怒りの葡萄」
<p>◆ 思考 世界恐慌の原因が資本主義の過剰生産であることに気づき、その解決にどんな方法があるかを考え、アメリカとイギリス・フランスの対策の違いをまとめる。</p>	

<p>● 発問例のバリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この不景気は偶然起こったのでしょうか ・ニューディール政策はそれまでの資本主義とどこが違うのでしょうか ・ブロック経済はどんな国で可能だったのでしょうか ・米と英仏の違いは何でしょうか ・日本はこれらの対策が可能でしょうか 	<p>● 学習内容の整理</p> <pre> graph TD A["第1次大戦中・後のアメリカ 空前の繁栄・・・黄金の20年代 大量生産・大量消費の社会"] --> B["過剰生産恐慌"] B --> C["生産の減退・大量の失業・倒産"] C --> D["有効需要の喪失"] E["ヨーロッパ 廃虚からの復興"] -.-> B F["イギリス・フランス 植民地との排他的 経済ブロック強化"] -.-> B G["アメリカ ルーズベルト ニューディール政策 有効需要創出"] -.-> D B -.-> H["悪循環"] H --> I["対策"] </pre>
---	--

○ 図版解説

写真①大量生産される自動車

第1次大戦を通してアメリカはイギリスを凌駕する世界最大の資本主義国に成長した。自動車・電気機械・石油化学製品などの新産業が他国を圧倒し、大量生産・大量消費の社会が形成された。ニューヨークに超高層ビルが林立したのもこの頃である。

写真②1929年10月24日のニューヨーク

この日突然売り注文が殺到し、1日で売りを中心に1289万株という取引高記録を樹立した。Black Thursday（暗黒の木曜日）と呼ばれた。ふだんならその後は反動で上がるはずである。ところが、10月29日、今度は価格関係なしの売り注文が前回は上回って殺到、1641万株総額80～90億ドルともいわれる史上空前の大暴落となった。Black Tuesday（暗黒の火曜日）と呼ばれる。この2回の大暴落以後アメリカの景気はどん底に落ち込んだまま横ばい状態が続き、自然の景気回復が不可能になった。

図③各国の失業率

？の扱い方

この日本の失業率は正確な数値とはいえない。当時1ヶ月の内、数日でも収入があったものは失業者にいないなどの算出法を取り、他国に比べ少なく見積もる方法になっていた。これは日本の社会政策が非常に貧しかったことと無縁ではない。特に日本の場合、資本主義の歴史の浅さから、失業すると農村に帰る場合が多く、このような潜在的失業者は統計に計上されていないが莫大な量に上る。政府統計では1932年32万人とされた失業者が、当時の権威ある

経済雑誌は200万人と推定している。

失業のもっとも深刻だったのはアメリカ資本が撤退したドイツである。報復的なベルサイユ体制下でのこの巨大な失業者の群れがやがてヒトラーを生み出したのは周知の通りである。

図④持てる国、持たざる国

持てる国持たざる国という分類はすでに戦前から日本の侵略を合理化するために使われていた。アメリカと英仏とソ連を資源や植民地に恵まれた同列の国としてまとめ、日本やドイツは民族のエネルギーは秀いでるのに資源も土地も少ない不公平に甘んじているという論旨で、日本の満州への侵略を正当化したのである。

ところが後述するように、同じ資本主義先進国でもアメリカとイギリス・フランスの間には世界恐慌への取り組みにおいて決定的な差があった。

この違いは、ケインズ理論による修正資本主義（社会主義的な政策を資本主義にも取り入れて恐慌を解決し、民主主義を発展させようとするアメリカのやり方）と19世紀的な古典的資本主義（既得権益をあくまで守り抜こうとする英仏のやり方）という違いである。第2次大戦がアメリカの参戦によって帝国主義戦争から民主主義を守るための戦いへと性格を変化させたのはこの違いによる。

したがって、持てる国・持たざる国という分け方は、日本の侵略に免罪を与えかねない余りにも単純な分類であり危険である。アメリカのニューディール政策にみられる社会政策の充実がなぜ日本に不可能だったかを検証することが大切であろう。

○ 本文解説

P 2 4 8

11行目 {1929年10月、アメリカで・・・}

社会主義の立場から当時の恐慌の様子をレポートしたバルガの『大恐慌とその政治的効果』は、資本主義経済の矛盾をわかりやすく描いている。

「アメリカでは、1933年に1000ha(全面積の約4分の1)の綿花が土の中に鋤き倒された。ブラジルでは年々1000万袋のコーヒー(ほとんど世界需要の年額に当たる)が焼却されたり、街路工事に使用されたりしている。茶は摘み取られない。ゴム樹は傷さえつけられない。ロンドンでは船倉一杯のオレンジが海中に投棄された。1933年秋には、500万頭の豚がアメリカ政府によって買い上げられて屠殺された。・・・こうした例はまだこのほかにいくらかもある。しかも、これらすべてが、数百万の失業者とその家族がボロをまとっている時に行われているのである。」

P 2 4 9

10行 {ニューディール政策}

1933年3月に大統領になったF. ルーズベルトが恐慌打開のためにとった政策の総称がニューディール政策である。基本的な特徴は、自由放任から政府の計画的介入への転換、とくに社会的弱者(労働者農民)への保護と強者(資本家)への統制の強化である。具体的に主なものをあげると、①全国産業復興法(資本の側には市場経済への計画的統制で適正価格・生産量の維持を図る。また、労働者には団結権・交渉権を与え、生活保障と購買力の増加をめざす)②農業調整法(過剰生産物の政府買い上げや作付制限で農民の救済・購買力回復・価格維持を図る)③テネシー川流域開発公社(TVA)(河川開発を通して失業者救済と電力の安価供給を図る)などがある。

15行目 {ブロック経済}

ブロック経済とは本来は数個の国民経済を結合してブロック(bloc=かたまり)を形作るという意味だが、世界恐慌下にあっては、植民地宗主国が植民地との間に排他的な市場をつくって自国の経済回復のみを優先させた政策をいう。

イギリスは、1932年7月にカナダのオタワでイギリス連邦経済会議を開き、本国と植民地の間に協定を結んで他国の商品を排除し、本国とのブロック経済を確立した。これによってイギリスは不況打開の見通しをつけ、フランスもこれにならった。植民地を持っているからこそ可能な政策で、日本やドイツの侵略に恰好の口実を与えることになった。

戦後アメリカを中心にGATT=WTO体制で世界貿易を一貫して拡大しているのはこの反省からである。

○ 発展資料 ニューディールの理論的背景とその後

「ニューディール」とは「トランプのカードを配り直す」という意味である。大恐慌により富が極端に偏在し、通常市場メカニズムでは自由で公正な競争に復帰できないという当時のアメリカの状態に対しては、まさに富の再分配=カードの配りなおしが必要だったのである。

このルーズベルトの政策は、資本主義を変えたといわれるイギリスの経済学者ケインズの理論を初めて実際に応用したもので、政策を推進した官僚の多くはケインズ左派と呼ばれた一群に属する。彼らは当時成長しつつあったソ連の社会主義経済体制に深い理論的関心を寄せており、資本主義の矛盾は社会主義的な政策によって初めて解決できると考えて以上のような改革を行ったのである。彼らは「ニューディール」と呼ばれた。

なお、彼らの多くが第2次大戦後日本占領軍の一員として来日し、占領計画の立案と実行にあたり、ニューディールの理想を日本にも作り上げようとしたことはよく知られている。

○ +α資料 「怒りの葡萄」に見るニューディール

大恐慌のころ、アメリカの多くの良心的なリベラリストがどれほど民衆の現実に胸を痛み、社会主義的な改革の理想をめざしたかは、スタインベックの「怒りの葡萄」が良い資料となる。

題名そのものが恐慌下で腐らされ捨てられる葡萄に矛盾への怒りを象徴させたものである。また、小説中にニューディール政策による失業者用国営キャンプの様子が新しい社会実現への希望を込めて描かれている。キャンプの指導者はいう。「人間には自分の魂なんてものではなくて、一つのでっかい魂の小さいかけらを持つてるだけなんだよ」

○ 授業で使えるネタチャップリンのモダンタイムス

この映画は世界恐慌当時のアメリカを実にうまく描いている。まず、繁栄の20年代を象徴する近代的な大工場で働く労働者の疎外状況がおもしろおかしく描かれる。能率をあげるためベルトコンベアースピードは極限まであげられ、食事自動機械で食べさせる。食事マシンを売り込むセールスマンのせりふも象徴的である。

次に、会社を首になり失業したチャップリンは大恐慌のまただ中に放り出される。彼は1本のパン欲しくて盗みを働いた浮浪者の娘を救う。町には失業者があふれる一方でデパートは商品の山である。

世界恐慌の状況をひととおり学習した後で生徒にみせると、生徒の歴史イメージが大きく膨らむ。

9 ファシズムの台頭 教科書P250-251	<この時間に使える教材> ・ドキュメンタリー映像の20世紀(NHK) ・映画「シンドラーのリスト」 ・映画チャップリンの「独裁者」 ・ヘミングウェイ「誰が為に鐘は鳴る」 ・アンネの日記 ・伝記「コルチャック先生」
◆ 資料 思考 大恐慌でドイツ・イタリアが取った対応を調べて、ファシズムの特色をまとめ、反民主主義的・人権抑圧の体制がなぜ支持されたのかを考える	

●発問例のバリエーション ・世界恐慌の結果ドイツはどんな影響を受けたでしょう ・なぜヒトラーは支持されたのでしょうか ・なぜユダヤ人を迫害したのでしょうか ・一般のドイツ人はナチスのどんな反応を示したのでしょうか ・ソ連はなぜ恐慌がなかったのでしょうか	●学習内容の整理 世界恐慌・・・過剰生産恐慌 ←→ 社会主義計画経済(ソ連)の発展 ・民主主義的な解決・・・アメリカ：ニューディール政策 ・植民地を利用・・・イギリス・フランス：ブロック経済 対立 フォシズムとデモクラシーへの世界の2極化 ・ドイツ (ヒトラー) 全体主義・民族主義 敗戦後の不利な条件 自由の抑圧 (ベルサイユ体制) ・イタリア (ムッソリーニ) 侵略主義 ← 恐慌の激烈な影響 失業の解決 民主主義の未成熟 ユダヤ人迫害 後発資本主義国 フォシズム
---	---

○ **図版解説**

写真① 軍隊を閲兵するムッソリーニとヒトラー

？の扱い方

行進の時右手をあげる敬礼を現在でも体育大会で指導している学校が見受けられるが、ムソリーニが始めて以後世界の枢軸勢力でさかんになったため「ナチ式敬礼」といわれていることを知らせたい。

ファシズムの運動は大恐慌による階級対立と社会不安の増大を背景に多くの国で盛んになった。ヒトラーとムソリーニはその先駆であり、各国のファシスト指導者は2人の言動を意識的にまねた。その魅力はナチ式敬礼のように社会不安のなかでカリスマ的権威による規律と秩序を求める多くの人々、特に染まりやすい若者に受け入れられたのである。

図② **スペイン内乱**

ファシズムに対抗してデモクラシーを守ろうとする人民戦線も世界各地で活発になり、スペインでは1936年総選挙で大勝し政権を組織した。ところが、スペイン領モロッコでフランコに率いられた軍部が反乱を起こし、人民戦線政府との間に内戦が始まった。この内乱は、労働者や小作人などの人民戦線政府対地主・資本家・教会などの保守勢力と軍部という国内の階級対立から起こったが、反乱軍をドイツ・イタリアが支援したのに対し、政府軍支援の国際義勇軍が組織されたことから、ファシズム対デモク

ラシーの戦いという世界的な注目を浴びた。内乱は反乱軍が勝利し、ゲルニカの絵は国内に展示することを長く禁止された。

図③ **各国の工業生産の伸び**

ソ連は恐慌に苦しむ資本主義国をしり目に、五年計画で着々と重工業を中心に経済発展を続けた。

日本は円安を利用してダンピングによる低価格輸出で工業生産の減少をくい止めたが、輸出の利益の恩恵にあずかたのは資本家だけで、農村恐慌や一般労働者の失業は非常に深刻だった。景気回復が一般国民に感じられたのは満州国が安定し軍需産業を中心に生産が拡大する1933年以後である。ドイツもナチスによる再軍備以後軍需産業中心に生産が回復した。ドイツと日本のやり方は、最後は戦争に持ち込むことを前提にした不景気のニセの解決である。

真の不景気の解決は有効需要が回復することで、これをケインズ理論に基づいて政府の手で行おうとしたのがアメリカのニューディール政策である。アメリカの景気回復は最も遅く、しかも35年には再び恐慌が起こった。最終的に失業が解決されるのアメリカも真珠湾以後戦時体制に移行してからである。

結局、当時の資本主義国はどこも大恐慌を戦争によってしか解決できなかったことになる。ケインズ理論による資本主義の修正を通過していない古典的な世界資本主義の限界だったといえる。

○ **本文解説**

P 2 5 0

4 行目 {ムッソリーニのひきいるファシスト党}

ムッソリーニ(1883~1945)は、鍛冶屋の息子に生まれ、社会党に入党し戦闘的な言説で人気を博したが、第1次大戦への積極参戦を主張して除名された。

この後、国家社会主義に傾斜し1919年ファシスト党を結成、1922年「ローマ進軍」で政権を獲得すると、他の政党・労働組合を禁止して独裁体制を確立した。第2次大戦のイタリア降伏時に逮捕されたが、ドイツ軍に救出され逃亡。その後パルチザンに発見され銃殺された。その死体は民衆のさらしものにされた。

12行目 {ナチスのヒトラーが登場し・・・}

ヒトラー(1889～1945)はオーストリアに生まれ、若い時は画家を志した。第1次大戦に伍長として参加、鉄十字勲章を受ける。その後ベルサイユ体制下の混乱の中で国家社会主義運動を始め、ドイツ民族の復興を狂信的な理念体系にまとめた「我が闘争」を出版し、ナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)の指導者として恐慌下のドイツで急速に頭角を表した。1933年に政権を握ると、国民の支持のもとにナチスと国家を一体化して、総統と称した。

彼のドイツ民族優越思想の具体化のいけにえにされたのがユダヤ民族である。ドイツ民族の純血を守るための通婚の禁止(違反者は死刑)から始まって全ての職業・地位からの追放、収容所への隔離へと進み、第2次大戦期には「ユダヤ人問題の最終的解決」として毒ガスによる絶滅計画に帰結した。この結果、アウシュビッツなどの絶滅収容所で400万人以上が殺された。ヒトラーは敗戦時に自殺、遺体は部下に焼却させ、所在不明である。

p 251

6行目 {ファシズムに反対し・・・人民戦線}

ファシズム運動が多く国で台頭すると、最初は眉をひそめているだけだった人々も、この運動の暴力的な本質と将来の危険性を感じるようになり、デモクラシーを守るために団結しようという動きが起こった。この動きが具体化したのが「人民戦線」である。特に、それまで社会党を敵視していた共産党が、1935年のコミンテルン大会で人民戦線戦術に転換したことでこの運動は国際化した。人民戦線はスペインとフランスで政権を握り、中国では国民党と共産党の協力による抗日民族統一戦線もたらした。

15行目 {スターリンの独裁}

スターリン(1879～1953)はレーニンの死後、ブハーリン・トロツキーらの指導者を失脚させ、反対派を徹底的に粛正し、ソ連共産党書記長として独裁的権力を握った。土地・資源・企業の国有化、農業の集権化を強行し、国家計画委員会による強力な中央集権計画経済のシステムを作りあげた。この結果ソ連経済は急速に重化学工業化した。

○発展資料 なぜファシズムが支持されたか

素朴な、しかしもっとも本質的な問いである。

ヒトラーは嫌がる国民をむりやり押さえつけて独裁体制を作ったのではない。ナチスは、選挙を通して合法的に権力を握ったのである。なぜか。その背景には次のようなやり方があった。

ヒトラーは非合理的な民族優越感情をあおることで自信を失った敗戦後のドイツに誇りをもたせ、同時に失業にあえぐ大衆に自由経済・自由主義・民主主義の無力さを訴え、軍需産業を中心とする大規模な国家事業(アウトバーンの建設など)で当面の仕事を与え、資本主義の矛盾を克服したかのような幻想を抱かせた。また、共産党の勢力拡大を見て社会主義革命が実際に起こることを恐れる資本家に対しては、徹底的な共産党弾圧で安心させて支持をとりつけ、軍需産業等の分野で利益を確保させた。

こうして独裁国家を確立すると、党と国家への国民の忠誠を最大限にひきだすために、新しい大衆扇動が採用された。軍事パレードや巨大な党大会やオリンピックなどの派手な見せ物で大衆を幻惑させ、ラジオや映画・新聞などのメディアをフルに動員して民族と国家への一体感をPRするやり方である。

このやり方に疑問を抱く知識人や反対勢力である社会主義者は、突撃隊という公認の愚連隊による公然のテロで沈黙させられるか国外に亡命させられていった。

この「公然の暴力」は批判者の封じ込めにもっとも有効な手段として、ヒトラーもムッソリーニも運動の初期から用いている手段である。ファシズム運動は2国だけでなく世界中に起こったが、共通する特徴は、この組織され美化された「公然の暴力」である。突撃隊や親衛隊の秩序だった一矢乱れない動きは不安に揺れるドイツの多くの若者の心をとらえ、「新しい社会の到来」として熱狂的な支持を得ていたのである。

ファシズムという現象は空前ではあっても、決して絶後ではない。多くの個人が不安であり、群れることによって安心が得られ、非合理的な考えが広がり、暴力を美化・容認する雰囲気があればその集団にファシズム的な権力が支配的になるだろう。

○授業で使えるネタ チャップリンの独裁者

つねに演技で観衆に訴え、映画の中で言葉を発さなかったチャップリンが肉声で訴えたほとんど唯一のシーンが、「独裁者」の最後の場面である。「私は支配したくない、むしろ支援したい・・・」で始まる演説は反ファシズムのためにデモクラシー勢力の団結を訴えている。ナチスドイツが最も強かった時に、全世界の虐げられた人々に希望と勇気を与えた演説だった。字幕をプリントして生徒に示すとよい。

10 日本経済の行き詰まり 教科書P252～253	<この時間に使える教材> 小説：山本有三「路傍の石」 五味川純平「戦争と人間」 映画：「戦争と人間」「東京裁判」 ドキュメンタリー「映像の記録20世紀」 ノンフィクション：ネルー 「父が子に語る世界歴史」
◆ 資料 世界恐慌が日本国内に与えた影響を本時のねらい 経済面を中心に調べることができる。 ◆ 思考 満州侵略により局面打開を図る動きが生まれてくる背景を説明できる。	

<p>● 発問例のバリエーション</p> <p>? 世界恐慌が日本国内にどんな影響を与えたか、農村・都市労働者・財閥・中小企業の各分野で調べてみましょう。</p> <p>? 軍部はなぜ満州に進出することで行き詰まりを打開できると考えたのでしょうか。</p> <p>? 政党政治はこの危機に対してどう対応したのでしょうか。</p>	<p>● 学習内容の整理</p> <p>世界恐慌の日本への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出の落ち込み・・・アメリカ市場の生糸価格暴落 ・ 生産の減退・失業倒産の激増 <p>大冷害</p>
--	---

○ 図版解説

写真① 1930年12月11日の新聞

？の扱い方

失業者数の調査は、この国勢調査が初めてだったことをつたえ、ニューディール政策と比べ日本の社会政策がどれほど遅れていたかを考えさせたい。日本が侵略へと進む背景をさぐる事が可能だろう。

写真② 取付さわぎ

日本では世界恐慌以前にすでに金融恐慌が起こっていた。第1次大戦後の不景気により、多くの銀行が不良債権を抱えていたところに、関東大震災が発

生、その救済措置（震災手形割引）をめぐる国会審議の過程で銀行の経営危機が蔵相失言で公表され、取付騒ぎが起こった。1927年1月～9月の間に44の銀行が休業に追い込まれた。この後世界恐慌がおり多くの中小銀行は財閥系大銀行に統合されていく。

写真③ 「東北地方の飢饉」

不景気では一般に農産物などの一次産品の価格が工業製品よりも買いたたかれ、価格差が拡大するため、生活苦は都市部よりもひどい。さらに、東北地方は半封建的な地主制が存在し小作人の生活は非常に苦しかった。そこへ大冷害が襲ったのである。

○ 本文解説

p 252

10行目 {大凶作におそわれた北海道や東北・・・}

東北地方はドラマ「おしん」で描かれているように、地主小作制による小作料現物納のため現金収入の少ない地域だった。世界恐慌の結果、生糸など商品作物価格が暴落し、農家は貴重な現金収入源を絶たれた。主要輸出先のアメリカの恐慌による需要急減のためである。さらに、30年の豊作により米価が下落し、「豊作ききん」が追い打ちをかけた。これに決定的な打撃を与えたのが31年の大冷害である。宮沢賢治が「サムサノナツハオロオロアルキ」と歌ったこの冷害は東北・北海道に大変な凶作をもたらした。

たとえば、山形県最上郡のある村では、娘457人中50人が身売りされている。東北本線などの鉄道沿線では乗客が捨てる駅弁の残飯を拾おうと子供たちが列車の後を追いかけると行った悲惨な光景がみら

れた。（粟屋憲太郎編『ドキュメント昭和史』）

12行目 {都市では労働争議や無産政党の・・・}

大正末以降急速に成長した社会運動は昭和恐慌下の民衆の窮状と財閥の利益のみを代表する政党政治への不満から闘争的なものとなっていった。

大正デモクラシーで説明したように、日本の社会運動・・・当時は無産運動と総称した・・・は、キリスト教社会主義・無政府主義・マルクス主義の3つの流れが初期のうちにあったのだが、この時期になると無政府主義はおとろえ、右派（労働総同盟－社会民衆党）と左派（労働組合評議会－労農党）という左右の対立が激しく、無産政党・労働組合・農民組合とも左派と右派さらに中間派の3つに分裂が固定化されていった。戦前の日本の社会運動は治安維持法をはじめとする外部の困難だけでなく、統一組織を作れないという内部の困難も背負ったのである。

このうち、総同盟－社会民衆党の右派は合法性の

=左派の切り捨て路線を追求し、組織を存続し抵抗を続けるという意味では功績があったが、同時に国家社会主義者として軍部と戦争に協力してく立場に進まざるを得なかった。

一方、評議会-労農党の左派は、背後に非合法下で活動した日本共産党の指導を受けており、1928年3月にはすでに一斉に弾圧され解散を命じられた。この後、左派の無産運動は共産党の指導のもとで治安維持法により続々と幹部・活動家・支援者が逮捕され、最終的に1935年頃までに組織としては壊滅し、幅広い大衆運動としての支持を獲得することができず、戦争を止める勢力とはなりえなかった。

大正デモクラシーを指導した「知識人」たちは、昭和恐慌の現実を前にマルクス主義=共産党に強くひかれていった。この頃経済学・哲学・政治学などの分野でマルクス主義の立場から日本の現状を分析する優れた論文が相次いで発表され、多くの若い学生たちの心をとらえた。しかし、彼らのほとんどは治安維持法によって検挙され、厳しい弾圧に転向していくことになる。

こうして、1935年頃までには右派の国策への協力左派の弾圧による壊滅という無産運動の結末を迎える。これと並行して、自由主義者への右翼・軍部からの攻撃が始まり、1935年の天皇機関説問題で大正デモクラシーは最終的に息の根を封じられることなのである。

○+α資料 治安維持法が開いた戦争への道

1925年に普通選挙法の成立とソ連承認のひきかえに貴族院対策として成立したのがこの法律である。社会主義・無政府主義の取り締まりをねらい、1928年には共産党員の一斉検挙を受けて最高刑を10年から死刑に引き上げた。この際ただ一人反対した衆議院議員山本宣二（労農党）は右翼から暗殺された。

グラフから分かるように、29年～33年に、左翼無産運動が大きく盛り、「中国から手をひけ」などの対支非干渉運動もおこったが、政府は治安維持法で完全に弾圧した。その後、35～37年にかけて自由主義者・反国家的と見なされた宗教家などもこの法で検挙され、合理的な批判精神は監獄内に封じられるか転向で歪められてしまった。こうして、十五年戦争への道が開かれたのである。

28 29 30 31 32 33 34 35 36 37

○授業で使えるネタ

映画「戦争と人間」第1部後編はこの時期の騒然とした国内状況をわかりやすく描いている。五木川純平の原作は無論もっともよく描いた資料だが、授業ではやや扱いにくく、いつか読んでみるようにと勧めるしかない。そこで映画を使う。たとえば

シーン1：場末の飲食街、不景気風が吹き荒れる。主人公の少年2人が屋台で食事をしていると、隣の職工風情の中年が酔って怒鳴り声をあげる。

「大学はでたけれど、というご時勢だからなら、この不景気だ、おれたち貧乏人にゃ失業、一家心中、幼児殺ししか残っていないんだ。くそつたれー。…満州、満州だよ！今の内閣ぶつつぶして、軍人に任せりゃいいんだ。満州さえとりゃこんな不景気いっぺんにカタがついちまうんだ。満州だ！満州！」

シーン2：ある財閥系企業の工場でストライキが行われる。労働者が道行く人たちに訴える。

「伍代産業の電球は世界に輸出されている！われわれは交代勤務で夜も眠らずに働いている！それなのになぜ我々はなぜ満足に食えないのか！」そこを官憲が放水を浴びせ弾圧する。

このような状況に対し、当時の政党内閣は有効な対策を打ち出せないのである。アメリカのニューディールにみられたような社会政策は皆無であった。軍部が民衆に支持される背景がここにある。

○発展資料 「満蒙権益」を脅かしたものは何か

軍部内には昭和恐慌の深刻化とともに軍部政権による非常手段で国家体制を革新しようという考えが生まれており、石原莞爾など関東軍の参謀には満州を中国から切り離して日本の勢力化におくことで国内の危機的状況を一举に解決しようとする動きが具体化していった。

すでに1928年には満州の実力者軍閥張作林を爆殺したが、これは次の事件には進まなかった。父張作林の後を継いだ張学良は、日本との協力をやめ、蒋介石に協力して国民政府に合流しようとする動きを見せた。とくに1928年に満州独自の旗をやめ国民政府の青天白日旗を採用したのはその決意を民衆に示したもので、関東軍の危機感を強めさせた。さらに満鉄に平行して走る鉄道を建設し、大連港に代わる新しい貿易港の完成もめざしたため、日本の満州の独占的利権は中国の民族資本の成長の前に崩れようとしていたのである。

したがって、満州侵略はソ連や欧米を敵として行われたのではなく、中国の民族主義の成長への暴力的な反動として実行されたといえる。そして、これが日中戦争・太平洋戦争の引き金になるのである。

1 1 軍部の台頭と中国侵略 教科書P254～255	<この時間に使える教材> ・五味川純平「戦争と人間」「人間の条件」 ・昭和万葉集 ・映画「ラストエンペラー」 ・「本庄繁日記」 ・森島守人「陰謀・暗殺・軍刀」
◆ 資料 思考 満州事変の結果とその後の国内・本時のねらい 国際情勢を調べることを通して、日本は軍部の独走を追認したため軍部独裁と国際的孤立を招いたことを理解できる。	

● 発問例のバリエーション ・ 関東軍はなぜ満州事変を起こしたのでしょうか ・ 事変の結果満州はどうなりましたか ・ 日本政府は満州事変にどう対応しましたか ・ 5・15と2・26事件の内容とその後の影響を調べましょう ・ 国際社会は満州事変にどう反応しましたか	● 学習内容の整理 <pre> graph TD A[世界恐慌] --> B[日本...昭和恐慌] B --> C[軍部・右翼] C --> D[2・26後 軍部独裁] D --> E[武力行動による一挙解決] E --> F[満州事変→5・15事件] F --> G[政党政治崩壊・軍部独裁へ] G --> H[国連脱退・国際孤立へ] I[農村: 凶作・生糸暴落, 小作制] --> J[都市: 労働争議, 失業・倒産] J --> K[社会問題の深刻化] K --> L[労働小作争議, 社会運動] M[政党政治の無力...] --> N[財閥の繁栄, 社会運動への弾圧] O[民衆の不満] --> P[軍部への支持] L --> N N --> P P --> H </pre>
--	--

○ 図版解説

写真①リットン調査団写真

満州事変に関する中国の国際連盟提訴をうけて、日本の軍事行動が本当に日本の主張通り自衛行動なのかを調査する目的で派遣された。調査の結果、報告書では①日本の自衛行動とは認められない②満州国は満州人の自主的独立運動の結果ではない③満州には自治政府を作るべきだ④日本の満州における権益は認める。そのために日中両国で新条約を締結すべき、とされた。これは当時のアメリカの主張(9・18以後の状況をいっさい認めない)と比べ、かなり日本に妥協的な内容と言える。したがって、幣原外交のような対米英協調路線であればこの勧告は受け入れられたはずであった。

しかし、5・15事件で政党政治が消滅した後の日本はこのような路線は放棄していた。このリットン報告書が公表される直前に日本政府は満州国を承認し勧告を全く受け入れる考えのない態度を明らかにした。こうして、この後日本は連盟脱退・国際的孤立の道を選ぶ。

○ 本文解説

P 2 5 4

12行目 {満州にいた日本軍は南満州鉄道...}

日露戦争でロシアから引き継いだ南満州鉄道は、その後長春以北の東清鉄道もソ連から譲渡を受けて小麦・大豆・こうりゃんなどの穀倉地帯である満州を貫いて商業港大連にいたる交通幹線となった。この鉄道沿線に限って鉄道守備用に日本軍の駐屯を中

写真②中国の町の壁にかかれた標語 ?の扱い方

「全面抗戦致敵死命 精誠団結致敵死命 殺日寇殺漢奸救国家」と板書し、意味を考えさせる。「侵略に全面抗戦し敵を倒そう 心から団結して敵を倒そう 日本の侵略者を殺し、中国人の裏切り者を殺し、国家を救おう」という意味である。満州事変当時中国共産党は即座に抗日団結を呼びかけたが、蒋介石ら国民党は共産党弾圧を優先した。日本軍占領下の満州では中国共産党東北地区委員会を中心にねばり強い抵抗が続いた。満州国は日本(日寇)らい政権だったが、表面的には満州人が高官のポストについており、これらが漢奸とよばれた。したがってこの標語は中国民衆に抗日を呼びかけているだけでなく蒋介石にむけて統一を呼びかける意味が強いのである。

写真③国連総会から脱退したことを伝える新聞

日本に対する満州撤兵決議は、賛成42反対1(日本)棄権1(タイ)で成立、松岡洋介主席全権(後の日独伊三国軍事同盟の立て役者)は、日本の立場を処刑されたキリストになぞらえた演説をした後昂然と退場した。

国に認めさせた。これが関東軍である。

南満州鉄道(満鉄)は資本の半分を日本政府が出資する国策会社であり、鉄道附属地の行政権も持ち撫順炭坑や鞍山鉄山などの鉱山も経営する巨大会社であった。特にその調査部には、日本国内を左傾思想のために追われた大学生や知識人なども集まって国内にはない一種独特な知的世界を形成していた。関東軍も、陸軍の一部でありながら、国内からの統制

に従わない雰囲気生まれやすかった。

○+α資料 満州事変の立役者たち

1920年代には、陸軍大学出身者に従来の藩閥を越えた同士の結合が生まれていた。彼らは陸軍部内の若きエリートである。天下国家の要であるという自負とともに、ヨーロッパ留学で知った第1次大戦から、日本陸軍と日本国家を近代的総力戦に耐え得るものに作り上げようという展望も持っていた。このグループのうち最も有力なものが「桜会」である。

昭和恐慌時には、彼らは参謀本部将校などの中堅幕僚層の位置におり、恐慌は彼らにとって軍と国家の最大の危機と考えられた。満州事変はこのグループによって引き起こされたのである。1931年9月18日、関東軍が行動を起こすと同時に、日本国内では桜会と右翼を中心とするクーデターが計画されていたがこちらは失敗した。そこで、関東軍は政府を無視し、満州国を作り上げて既成事実としてしまった。

○発展資料 満州事変の政治史的意義

日本国内の指導者の中には大正末年から2つの相反する考え方があった。一つは中国進出について日本の突出を避け、英米と協調し中国の国民革命に中立的態度を取るという考え方。これは浜口-若規の民政党内閣の外相をつとめた幣原喜重郎の外交方針で幣原外交と呼ばれる。中国に対しては、進行しつつある蒋介石の国民革命軍による国内統一（北伐）に干渉せず、欧米に対してはワシントン・ロンドン軍縮条約に賛成・調印するという動きをした。この考方は岡田啓介・渡辺錠太郎・斎藤実という海軍上層部にも支持されており、さらに政界では元老西園寺寺公望をはじめとして内相一木喜徳郎、枢密院議長牧野伸顕ら天皇の側近グループに支持されていた。かれらは大正デモクラシーを支えた一つの柱でありやがて2・26事件で襲撃の対象となる。なお、彼らが支持したのが美濃部達吉の天皇機関説である。これは、憲法をドイツの国家法人説によって解釈し①天皇は神聖＝政治的無責任②したがって国の統治は内閣の補弼と議会の協賛によって行われる③軍の統帥者としての天皇は内閣の補弼を必要としないが、それは作戦命令などの軍令関係にとどまり、軍事予算の決定や宣戦布告などは国の統治行為で内閣の補弼を必要とするという考え方をする。この考え方に昭和天皇が一貫して賛成していたことはよく知られている。大正デモクラシーは支配階級のこのような考え方によって可能となったのである。

これに対し、この考え方に不満を持つ勢力があった。この勢力は枢密顧問官伊東巳代治-副議長平沼

騏一郎をトップに右翼・陸軍上層部-政友会田中義一首相という流れがあり、幣原外交を「軟弱外交」、軍縮条約調印を「統帥権干犯」と非難したのである。

前者の考え方は大正デモクラシー-政党政治の本流だったが、昭和恐慌後の国内危機に有効な対策を打ち出すことができなかった。それに対し陸軍内の国家革新を考える勢力が直接行動で満州事変を引き起こしたのである。満州事変勃発時に若規民政党内閣は不拡大方針をとったが現地軍は無視し、満州国を既成事実として作り上げ承認を渋る犬養内閣を5・15事件で倒し、大正デモクラシーを葬った。これを周りで支援したのが後者の勢力であり、彼らはこの事件をきっかけに前者を追い落として国内政治の指導的立場に登場するのである。この後、天皇機関説問題で美濃部学説が排撃され、2・26事件で天皇側近の前者のグループが襲撃され、急速に軍部革新勢力の政治体制が確立していくことを考えれば、満州事変の史的意義の大きさが理解されよう。

一時は大正デモクラシーが政府・支配層の中核まで支持されたのに、その後の軍部・右翼の独走を止められなかった理由は何だろうか。

理由の一つに以下の事実をあげることができる。5・15事件を起こした海軍若手将校グループへの除名嘆願が多く国民から寄せられたことである。恐慌に苦しむ一般の民衆は政党政治の無為無策に恨みに近い不満を抱いていた。言い方を変えれば、当時の政党政治は大衆に対する社会政策的視点を全く欠いていたのである。（例えば、労働組合法の不成立・小作制の放置など）。明治国家体制は大正時代に起こった日本の社会的変化……資本主義の発達による無産大衆の登場に有効に対応できなかったのである。

○授業で使えるネタ「歴史が動こうとしている」

満州事変勃発時、現地領事館は外交交渉で解決しようとしたが、関東軍は戦争を強引に拡大した。当時奉天領事だった森島守人の回想によれば、「板垣大佐は語気も荒々しく『すでに統帥権の発動を見たのに総領事館は統帥権に容かい干渉せんとするのか』と反問し同席していた花谷小佐などは私の前で軍刀を引き抜き『統帥権に容かいするものは容赦しない』と威嚇した。これでは話のつけようもないので一応帰館した。」この場面を映画「戦争と人間」では森島と同行した架空の外交官を石原裕次郎が演じて花谷と対決し、こういうセリフを語らせる。「今、日本の進路が大きく動こうとしています。われわれ外交官は何もできないほど無力なのでしょうか。」

歴史の決定的な曲がり角で、あの時こうしていたらという痛切な反省から生まれたセリフだろう。

<p>1 2 日中戦争の始まり 教科書P2256～258</p>	<p><この時間に使える教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・五味川純平「戦争と人間」 ・火野葦平「麦と兵隊」 ・マンガ「のらくろ」 ・野上弥生子「迷路」
<p>◆ 思考 満州事変以後軍国主義が支配した日本時のねらい 本が、中国への全面侵略に踏み込み、中国の粘り強い抵抗で長期戦に陥り、国内も戦時統制が強まっていく様子を理解する。</p>	

<p>● 発問例のバリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の満州侵略に対し、中国の国民党と共産党はどういう動きをしたのでしょうか ・日本はなぜ宣戦布告のないまま中国への全面侵略へと進んだのでしょうか ・日中戦争では日本軍はどんなことをしましたか ・戦争の長期化につれ国内はどうなりましたか 	<p>● 学習内容の整理</p>
--	------------------

○ 図版解説

地図① 日中戦争

1937年7月7日の蘆溝橋事件以後日本軍はその年の内に中国の主要部分を占領した。特に12月の南京陥落は蒋介石国民政府の首都を占領したわけで、国民は戦勝気分酔った。ところが、国民政府は重慶に移って徹底抗戦を呼びかけ、また占領地域の農村地帯では絶えずゲリラ戦に悩まされ、日本政府の予想に反して長期化していった。

？ の扱い方

日本軍の占領地域が鉄道と都市に限られていることに着目させる。いわゆる「点と線」である。奥地や

農村部は日本軍は支配できなかった。毛沢東が、この戦争は初期は日本軍の進撃を許すが最終的に必ず中国が勝つという予想をした根拠は、この広大な奥地と深い人民の海(農村)という2つの存在である。

日中戦争の前後に行われた国共内戦も同様で、国民党は資本家・地主(都市)に、共産党は小作人(農村)に勢力基盤を置いた。1927年の国共内戦開始当時、国民党に押しまくられた共産党は、国民党支配地域の平野部をう回して奥地を通り、険しい山奥の延安に革命根拠地を築き、勢力を蓄えた。これが長征である。毛沢東はこの山奥から農村に解放区を拡大し都市を包囲するという戦略をとったのである。

○ 本文解説

p 256

8行目 {内戦をやめて日本軍に抗戦しよう}

蒋介石の国民党と毛沢東の共産党は1927年以来深刻な内戦を行っていた。蒋介石の国民政府は北伐(国内統一)を華北でとめ、その後は共産党打倒を抗日よりも優先する方針をとり、満州回復と張学良支援を後回しにした。一方、共産党は長征後は人民戦線戦術への転換もあって、「内戦を停止し一致して抗日にあたろう」という呼びかけを送っていたが、蒋介石はこれを無視し、内戦を継続しようとしたのである。

日本によって満州を追われた張学良は国民政府の幹部として掃共作戦に従事していたが、幹部の部下とともに反乱を決意し、1936年12月12日蒋介石を西安で軟禁し、方針の転換を迫った。共産党の周恩来らの仲介で、蔣は共産党との内戦を停止し、一致し

て抗日に当たることに同意した。(西安事件)

この結果、共産党軍は国民政府第8路軍(方面軍)・新4軍に組織替えされ、国民政府は全中国人民の代表となって全世界の支持を受けることになった。

当時日本国内でこの事態の重大さを認識できたのはごくわずかで、ほとんどの指導者が国民政府も中国国民衆もすぐに屈服させられると考えていた。

11行目 {日中戦争が始まりました}

1937年7月7日、蘆溝橋で日本軍と中国軍の間に戦闘が起こると、近衛内閣は事件不拡大・現地解決の基本方針を決定した。しかし、現地軍・関東軍は対中国強硬派によって占められており、現地解決の名のもとに軍部の積極路線にズルズルと引きずられていくことになった。当時の日本の指導層のほとんどがすぐ中国が屈服し解決できると考えたことと軍部を止める勢力が2・26事件以降なかったためである。

ところが、国民政府は首都の南京を占領されても屈服しなかった。日本政府は国民政府の生意気な態度を改めさせるといふ抽象的な名分で宣戦布告のないまま戦火を大陸全土に拡大させ、1939年には37師団50万人以上の兵力を派遣してなおも目的を達成できず、膠着状態に陥った。

日本政府は、1939年以降国民政府の切り崩しを画策し、蒋介石に継ぐナンバー2だった汪兆銘による親日派の国民政府を占領地域に作ったが、民衆の支持は得られなかった。重慶の国民政府への英米の支持、毛沢東の持久戦論という的確な戦略方針のもと中国は粘り強く日本の侵略に戦った。

こうして、この戦争は日本にとっては実質的に国家をあげた全面戦争となり、その泥沼化した状況の解決をねらって太平洋戦争に突入するのである。日本は中国の民族自立の動きを押さえつけようと侵略し失敗して敗北したわけである。

P 2 5 7

16行目 {国の予算の大部分が軍事費に・・・}

2・26事件以降、軍部の意向が政治に直接反映するようになると、膨大な軍拡予算が組まれるようになった。特に日中戦争以降は日本は国債費を乱発し軍拡路線を突き進んでいった。軍需産業は空前の好景気にわき、職工不足で熟練工は引く手あまたとなり給料は跳ね上がった。こうして失業は解決され昭和恐慌は去っていったのである。

1937年以降の民衆の生活の相対的な安定はこうしてもたらされたが、そのうらには治安維持法で検挙された若者の多くが転向の挫折感に苦しみ、軍部の統制に不安を感じる自由主義者が沈黙を余儀なくされていた。野上弥生子の「迷路」は創作だが、この時代の見事なレポートである。

○ + α 資料 皇民化政策

朝鮮・台湾などの植民地の人々を帝国臣民として扱い、日本語の使用、日本名への改名や神社参拝を強制した政策を指す。日本植民地時代に日本は社会資本や教育を整備したという評価は、この政策が相手の民族性の抹殺であることを理解しない無神経さから生じる。従軍慰安婦が商行為だから免罪されるというにいたっては女性蔑視も含めた二重かつ最低の誤りであろう。朝鮮や台湾では太平洋戦争激化にともない徴兵制が布かれたが、これらの戦争犠牲者の個人補償は現在まで日本政府は一切行っていない。国家補償は解決済みであるという方針を崩さないためである。被害者のアジアの人たちに民事訴訟の道が開かれてはいるが、現在までの判決はすべて時効によって原告が敗訴している。

○ 発展資料 2・26事件と高度国防国家と国家総動員法

陸軍には2・26事件以前には2つの勢力があった。このうち、陸軍省や参謀本部など軍の中枢にいたエリートたちは、政党政治を倒し軍中心の国家体制を作る具体的なプランを持ち実行に移していった。代表的な人物は石原莞爾・永田鉄山・東条英樹らであり、要するに軍中枢部の主流派である。これに対し、地方の連隊所属の非エリートの青年将校には、昭和恐慌化の危機を見て感情的な尊皇思想に基づいてクーデターによる国家改造を計ろうとする動きが生まれた。彼らは軍の中枢を、既成権力に妥協して自分達抑えようとする「統制派」と呼んで嫌悪し、自分たちを明治維新の志士になぞらえて「皇道派」と呼んだ。

1936年の2・26事件は、皇道派によるクーデターだが統制派はこれを鎮圧し、首謀者を死刑にして軍内の皇道派を一掃して軍の統制を完了すると同時に、これを最大限に利用して軍の政治支配を成し遂げた。2・26事件とは統制派による国内支配の完成である。

この統制派の理想は国家のすべてを近代戦遂行のために組織すること・・・「高度国防国家」の建設であり、それが実現したのが国家総動員法である。

「第1条 本法において国家総動員とは、戦時に際し国防目的達成の為、国の全力を最も有効に發揮せしむるよう人的及び物的資源を統制運用するをいう」この内容はナチスの総動員法にならってすべてを戦争のために政府(軍)の統制下におくというものである。私有財産の制限など明らかに憲法に違反しており、当時の国会でも大問題となったが、佐藤賢了軍務課長の「だまれ」の一喝などもあって成立した。

この法律とその他の戦時統制法によって、日本の市場経済と自由経済体制は失われ、戦争の長期化にともない、消費物資は配給制となり姿を消した。それらは軍の倉庫にあったのである。

○ 授業で使えるネタ 日本の重化学工業の起源は？

1937年以降の軍事費の拡大は、統制派軍部の「高度国防国家」実現のために航空機・戦車・航空母艦などの新兵器の開発に費やされた。この代表が1937年に建設が始まった巨大戦艦大和とゼロ戦開発である。

これらの近代兵器の大規模な開發生産は、それまでの繊維工業中心だった日本経済をいっきに重化学工業中心に転換させたのである。資本家でいえばゼロ戦の生産に携わった三菱の成長をもたらし、あらたに日産コンツェルンなどの軍部と結びついた新興財閥も生まれた。豊田織機から自動車部門が独立し陸軍向けのトラックを生産する豊田自動車に成長したのもこの時期である。

中京工業地帯の歴史を振り返らせると良い。